

# 樹々の間を通りぬけ 急な坂を悠々と...

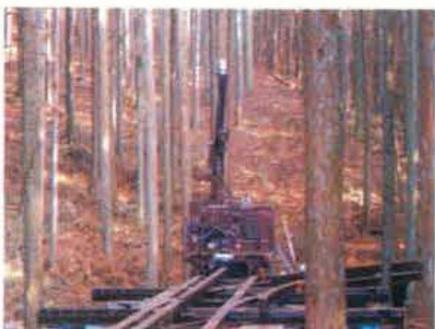
山間急傾斜地における  
自然にやさしい  
建設資材  
運搬方法



林の間を走る駆動台車と乗員台車



駆動装置（ラック、ピニオン方式）



クレーン台車による延進施工

砂防工事など建設工事にあたっては資材の運搬のため一般的には工事用道路を設置しますが、自然の豊かな場所、特に山間急傾斜地での道路工事は広い面積の樹木の伐採や切土、盛土により、そこに生息する動物や植生に大きな影響を与えることがあります。

富士砂防工事事務所では約三十度の急斜面を登り、三ツの資機材を運搬できる軌道方式の建設機械を日本で初めて開発し、弓沢第三砂防ダムにて実用化試験を開始しました。

自然環境の観点から道路に比べて次の特徴があります。切土、盛土が無いので地形の改変が小さくなります。小さな曲線で、レールを地上から約一・五mの位置に設置し、その上を運搬機械が走ることから樹木の伐採や下草への影響が少なくなります。またシカなどの動物の移動もあまり妨げません。

このように生態系への影響をできるだけ小さくしてありますので、実用化すれば、この方式は今後広く使用されるものと思われまます。



発行  
建設省  
富士砂防工事事務所  
富士宮市三園平1100  
電話(0544)27-5221



富士宮市山宮地先  
(弓沢第三砂防ダム)で

実用化試験開始

# 防止月間 特集

6 / 30



富士宮市立上井出小学校の児童達



上井出小児童、ミス「富士山」、ミス「かぐや姫」  
他によるオープニングテープカット

(名古屋市、久屋大通り公園)

## SABOフェア'95

### セイフティアップ



巣箱作りにはげむ仲の良い親子

競技の説明を聞き入る参加者



一瞬にして人命や大切な財産を奪い去ってしまう土砂災害（土石流、地すべり、がけ崩れなど）のほとんどは長雨や大雨（富士山では雪崩も）がきっかけとなって起ります。また阪神大震災のように地震で起きる場合もあります。建設省、静岡県及び二市一町では雨の多い梅雨時期に「見て聞いておぼえておこよう危険箇所」を合言葉に土砂災害に対し様々な啓蒙運動を展開してきました。

## 大沢扇状地 クイズウォーク 6/24



荒涼たる扇状地を歩く



植物を観察しながら樹林帯を歩く



「野外学習」扇状地にて「奇石博物館」  
北垣俊明氏による「富士山の歴史」

# 見て聞いて、おぼえて、おこよう危険箇所

# パネル展



富士宮市役所ロビー



富士宮市 富士山ふるさと展示室

# 街頭キャンペーン 6/21



ヤオハン富士宮プラザ前

街頭キャンペーンで活躍する「アマツバメ」君



# '95 土砂災害

## 6/1



SABOフェア'95に参加された富士市立須津中学校生徒達



大沢崩れをバックに  
(左より)  
ミス「富士山」 草間 明子さん  
ミス「富士山」 篠原 輝恵さん  
ミス「かぐや姫」 池田美也子さん



富士宮市立上井出小学校児童、教師、PTA



クイズボードの前で



記念植樹



工事安全パトロール



一日事務所長

ミス「富士山」  
(篠原輝恵さん)  
一日事務所長

6/21

砂防講演会

「富士山にまなぶ」

富士市文化会館

ロゼシアター



鈴木清見富士市長によるあいさつ



富士砂防工事事務所長井調査課長による事業報告



富士市立須津中学校「松下智子」さんによる朗読



講演会に花添えるフルートアンサンブル「プリムローズ」による演奏

私達は富士山の自然と雄姿に支えられて生活し、文化を育てて来ました。この富士山の恵みを未来に継ぎ、地域の人々の生命と財産を守るために砂防工事が続けられています。この様な中、富士砂防工事事務所、富士市、富士宮市、芝川町主催による砂防講演会「富士山にまなぶ」が平成七年九月十日、富士市文化会館「ロゼシアター」にて地域に住む大勢の皆様方の参加をいただき、講師として医学博士であり登山家として御活躍されている

今井通子氏を迎え講演会が行われました。

途中、「土砂災害防止月間、作文の部」で建設省河川局長賞を授与された富士市立須津中学校・松下智子さんの「知る努力、語り継ぐ努力」の朗読。富士市を拠点に活動しているフルートアンサンブル「プリムローズ」の皆さんによるフルートの演奏をはさみ、最後に講師今井通子氏、鈴木清見富士市長、星野和彦富士砂防工事事務所長との対談が行われました。



対談

出席者

- |      |            |     |     |     |
|------|------------|-----|-----|-----|
| 講師   | 今井通子       | 井木野 | 通清和 | 子見彦 |
| 富士市長 | 富士砂防工事事務所長 |     |     |     |

星野所長 富士砂防工事事務所では人々に富士山を知ってもらうためにいろいろ考えています。御中道を歩いて大沢崩れを見ていただいているのも一例です。

今井通子氏

登山に十分な体力のある人間だけが富士山を知るのではなく、ハンディキャップのある人も、中高年の人たちにも、皆に楽しんでもらいたい。一合目あたりから単に森林地帯を楽しみむのもいい。そこで昼寝をしたり、乗馬をしたり、フォレストトレッキングしたり。ガイドが案内するコースを作ってもいい。ソフト面を充実させて世界中のどんな人も楽しめる富士山にしてほしい。

# 山の山、富士山 の山、富山 として 世界日本 そして



講師  
今井通子氏  
(医学博士・登山家)

## 健康の三原則とは、「栄養」「運動」「睡眠」＋「環境」を

医者であった両親は、幼いころから機会があるたび海あるいは山へと私を連れ出した。そこでは多くのことを学ぶことができた。体力も知力も海や山で培われたように思う。アウトドアで過ごす楽しさを教えてくれた両親に感謝したい。

俗にいう健康の三原則とは

- ① 栄養をとること
- ② 適度な運動をすること
- ③ 十分な睡眠をとること

である。これらはどの場所でも、どの状態で行っても同じなのかというところではなく、第四の条件「環境」を加えねばならない。食べるという行為を例にとってみると、家の中で食べるより海や山で食べる方が唾液の分泌量が明らかに多く、消化能力が高い。また結核の治療にしても外の空気のよい場所へ連れていくと回復が早いという事実がある。つまり自然は人間に対して与えてくれる恩

恵の中のひとつで、健康を維持するために大きな影響力を持つているのだということがわかる。

## 自然を、なるべく危険のない、しかも皆が楽しめる形で残して

ヨーロッパ人の山登りの仕方と日本人のそれでは決定的に価値観が異なる。

前者の場合は肩の力を抜いてごく当たり前に山登りを楽しみ、自然にふれている。しかし、後者は頂上まで行くことに意義があるとか、人生のイメージトレーニングのような考えが根強い。私自身、その価値観の違いに触れて大変なカルチャーショックを受けた。

ヨーロッパ人の生活を観察してみると、家の中より戸外、戸外より海辺、海辺より森林の方が体によいことを本能的に知っているのではないかという気がする。フランスパンひとつ持って公園に出かけていき、日光の下で朝食をとる独身サラリーマンしかり、朝から晩まで山の中の同じ場所ですつと話し込んでいる女性たちしかり。自然の中にいることは、彼らにとって日常なのだ。

ヨーロッパというのは人間が自然を再構築した箱庭である、と思う。人が自然に戦いを挑まなければ生きていけなかったヨーロッパの人々は、岩しかなかった所に種をまき、土ができるのを待ち、その土へ木を

植えた。ドイツなどでは森を削って人の住む場所を確保した。だから戦う相手（「自然」）が弱ってきたことにもすぐ気がつく。そして何とかしてそれを保全しようと努力するのである。一方、ネパールなどでは人間は自然によりそって生活している。自然発生の山火事が起こっても消しにくいわけでもない。山火事の結果もたらされる良質の炭を取りに行くのだという。こういう世界もあるわけだ。これらを踏まえた上で、日本はどちらの世界に生きているのだろうか。

日本は農業国が急激に工業国になり、現在は科学技術国になろうとしている。その発展の過程で失った自然は多い。今から再構築していく必要があるが、日本という国はそうしたことには手をつけない。これができてこそ先進国といえると思うのだが。

このところの全世界的な自然災害を見るにつけ、自然は確実に変わってきているなど感じる。この自然をなるべく危険でない形で、

しかも皆が楽しめる形で残していかなければならない。



講演に聞き入る参加者

### 鈴木市長

須津溪谷に休養林を作ろうとしたら、人はすぐ電話や電気はあるかと聞きたがる。果たしてそれは自然に親しむ場所に必要なことなのだろうか。日本人の感覚では第一に安全とか連絡とかが先行してしまうが。

### 今井通子氏

現代の日本人は文明の利器のない所では生活できない。しかし山小屋などでは下界と同じ安心できる状況を作ろうとしている。スイスのように安く登山しようと思う人は自分のエネルギーを使い、それができない人はお金を出して登山電車に乗ったり文明の利器を利用すればよい、といった考えもある。今後何か事業をするのであれば、どちらを選ぶかは個人に任せられた方がいいのでは。

## 美しい富士山を人間が守り

美しい富士山を人間が守り、手当てしていかなければならない。その技術はあるのに発想のないのが日本である。先進国と呼ばれる諸外国ではきちんと再構築がなされている。どうしたらこの国で自然も、人も喜ぶ再構築ができるか、今後の課題として考えてもらえればうれしい。

潤井川河畔において

# 潤井川流路工の 完 成



関係者による記念碑の除幕



平成七年十月十七日富士宮市上井出地先の潤井川河畔において、来賓、市民、地権者、関係者の皆様の出席のもと、「潤井川流路工」の完成を祝いました。

青空のもと上井出保育園児による花植えのあと、石川静岡県知事、渡辺 紀「富士治山期成同盟会」会長よりお祝いの言葉をいただきました。

続いて、潤井川周辺の美化、清掃に御協力いただいた上井出区（代表、荒川昭一郎区長）、狩宿区（代表、井手潔区長）、上井出保育園（上井出保育園長と園児）に感謝状が贈呈され、代表者による記念碑の除幕、記念植樹が行われました。

引続き市内、「リーチェル幼稚園」、「富丘保育園」園児による鼓笛隊を先導に潤井川を渡り歴史広場にてくす玉割の後、「餅まき」を行い、捨う人もまぐ人も大変楽しい一日でした。



渡辺 紀富士治山、治水期成同盟会会長（富士宮市長）による祝辞

## 植樹



上井出保育園長と園児代表



▲上井出保育園児による花植え



上井出保育園児による記念植樹



## 感謝状の贈呈



荒川昭一郎上井出区長



井出 潔狩宿区長

潤井川流路工完成式出席者の方々



もち投げをする渡辺紀富士宮市長・  
大久保駿建設省砂防部長・鈴木清見富士市長等



餅まき

投げるも  
拾うも楽しそう



もちを拾う園児達

## 鼓笛隊パレード



リーチェル幼稚園児・富丘保育園児による  
鼓笛隊パレード



おさんぽこみち(管理用通路)を歩く児童

## 潤井川流路工

潤井川流路工は河床の固定、河岸の保護を図り、洪水を安全に流下させることを目的に計画され、昭和47年に事業着手し23年の歳月をかけ完成しました。

又、流路工の周辺には数多くの史跡や「白糸の滝」等の名勝があり、地元において潤井川を中心とした「富士山と歴史と文化の里づくり」が進められています。このため、当流路工においても歩道の整備（建設省）、ポケットパーク、花壇等の整備（富士宮市）を行い、地域の安全性を確保するとともに住民の憩いと安らぎの場を提供し、多くの方々に利用されています。

### ●潤井川流路工の計画概要

延長 L=4,782m

(潤井川流路工 L=3,337m、大沢川流路工 L=1,445m)

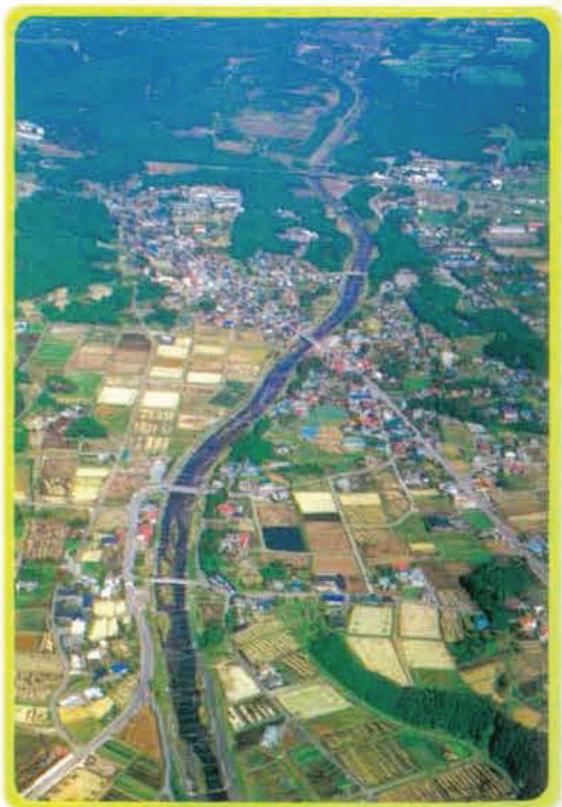
床固工80基、垂直壁83基、帯工12基、歩道整備

総事業費 約83億円

工事期間 昭和47年～平成7年

### ●周辺環境整備（地方特定河川等環境整備事業等による）

ベンチ15基、水飲み場1基、便所1基、広場・園路、  
東屋1棟等



完成した潤井川流路工

# 潤井川流路工 完成記念

## SABO Mt. Fuji

富士山の砂防事業の展開を図るうえで、地域の皆様方から、提言・要望を頂く場とし、毎年 SABO Mt. Fuji 懇談会を実施しています。今回は大久保建設省河川局砂防部長のあいさつの後、潤井川流路工完成を記念して講師に余暇コーディネーター「野口智子氏」を迎え、「余暇時代の川との付き合い方」についてのお話しをして頂き、引続き「潤井川の整備と街づくり」と題して地域の有識者の方々に参加を頂き、パネルディスカッションが行われました。

市内児童・生徒が書いた富士山の砂防



### 街づくりと砂防

建設省河川局砂防部長 大久保 駿

潤井川流路工は、大沢崩れから出た土砂を扇状地に溜め、その下流の大沢川流路工や潤井川には流さないようにするためのものであり、富士砂防工事事務所は約三十年と短い間、この間に、日本の砂防技術や計画論、施行等々、色々な面で先導的な役割を果たして来たと思う。神戸の六甲山は、雨が降るたびに大量の土砂を流し、市街地に被害を与えていたので、明治



の中頃から砂防工事が進められていた。昔、阪神大水害という災害があったが、土石流にも全く被害を出さなかった。その訳は、山を緑にして谷を安定させたからである。

このように、山の緑が復活するように努力すれば、結果は必ず現れる。砂防の目的は、災害を防ぐことだが、云い変えれば、荒々しい自然を穏やかな自然へ戻す仕事だとも云える。

潤井川流路工は、一応完成したが、これからも地域住民とともに、「どうやったか親しめる、楽しい潤井川になるか」を考えていきたい。

### 基調講演 「余暇時代の川との付き合い方」



講師 野口智子氏  
(余暇コーディネーター)

◎余暇とは休んで、遊んで、学ぶこと  
ゆとりには、物、空間、お金、時間などの種類がある。しかし、最終的には、心のゆとりが大事である。では、心のゆとりを育てる具体的な方法は何か。それは、余暇活動をするのである。そもそも、余暇とは、休んで、遊んで、学ぶことを意味する。

まず「休息」—これは、頭と身体を休めること。『気晴らし』—遊ぶことで、旅行に行ったり、スポーツをしたり、趣味に没頭したり気分転換すること。最後に学ぶとは、『自己開発』である。新聞を読んだり、人と話をしたり。その中から、何か学ぶことが出来る。

さて、今日の話題は「川」。これからの川というのは、いい余暇人間になるための一つの装置である。川の周りに使って自己をどうやって表現するか。これを、潤井川にあてはめて考えてみよう。具体的な提案を三つ挙げてみる。

活動は、金銭を消費するのではなく、時間を消費していくもの。どれだけ上質の時間をここで過ごせるかが問題だ。

②は、小さなことでも学び方さえ考えてあげれば、人々はそこからいろいろ学べるものだ。学びたい欲求もある。流路工とは何だろう。潤井川の歴史は何だろう。そういうことを覚えて帰れる「学べる川」になるように、学べる仕掛けをたくさんつくってはどうか。

③は、一口で云えば「川で冒険をしよう」ということ。自分自身、自立したいと思っても、中々そのきっかけをつかめない多くの人がいる。地域と接触しようと思ってもどうしていいのか解からない。忙しい時代では、家族が集まって、ゆっくり話をする機会も少ない。それなら、川で家族であることを確かめ合ひましょう、という訳だ。

◎ハード(川)からソフト(親しみ)へ  
川そのものは、ハード施設である。それに、どのくらい高い余暇価値が付けられるかというと、その周辺に住んでいる人が、どのくらい川をステージとして使っていくかによるのではないか。

潤井川流路工の完成は、潤いのある時間が流れる川に変えるための出発点である。

ハード(川)を整えたら、今日から、ソフト事業を整備すべきである。



講演に聞き入る参加者

**パネルディスカッション**  
**潤井川の整備とまちづくり**

○コーディネーター  
 若林 淳 之 (静岡学園短期大学学長)

○パネラー  
 井出 信 子 (狩野区 区 長)  
 (ふじのみや女性の会会長)  
 石川 修 (富士宮市経済部商業観光課長)  
 星野 和 彦 (富士砂防工事事務所長)

「歴史のある川」

若林 淳 之 氏

潤井川というのは、下流は潤井川だが、上流は枯濁川ということで、普段は水が流れていない川である。過去の歴史を振り返ると、土石流が流れ、洪水とかについて多くの話がでている。江戸時代は、鹿島五千石と云われる平野があり、ここの灌漑用水路は、すべて潤井川から取っていたという。

また、大沢崩れから流れてきた大石が積もり、大石原と呼ばれる場所がある。潤井川、大沢川の治水、或いは、洪水防止と云われるものに、非常に深く関わったお寺が大石寺であり、西山本門寺も同じである。

また、北山本門寺は、昔、この付近は、押し出しと云われ、富士山の雪代等で大量の土砂が押し出してきた場所であるが、そこに寺が建てられているということは地域の文化の発達の拠点であると考えられる。

こういう歴史も考え、私たちは、潤井川と親しみ或いは、地域のまちづくり、都市計画等、そういう視点で議論していきたい。

「安心して休むことが出来る川に」

井出 信 子 氏

潤井川は、普段は石が転がっているだけで、ひとたび富士山に雨が降ると、土石流が落雷のように、地響きをたてて、うねり狂って、様々な護岸、堤防を決壊し、猛威を振るった。

それが、砂防工事のおかげで見事に整備され、市民は、今では安心して休むことができるようになった。これからは、ただ水

を流すだけでない、地域の人々の憩いの場所になるような川にしていきたい。

生命と財産を守る流路工

星野 和 彦 氏

地域の人々の生命と財産を災害から守る為潤井川流路工が完成したわけですが、土石流が出て来る訳ですからコンクリート張となってしまうが、とにかくにも洪水だけは流せるようにという流路工がやっと出来た状態です。

歴史的資産を生かして

石川 修 氏

人間の五感が観光の基本的な要素だと考えている。商業としての観光、まちづくりの観光も、最近の観光のあり方である。つまり、人間が集まるもの全て、観光なのだ。

では、潤井川周辺の歴史的資産を生かした観光を、どう考えるか。八百年ほど前に「富士の巻持り」が行われたが、そのとき、頼朝の陣をしいたところが、井出の館、潤井川の東に曾我



実際見てみると、石ばかり。水はなくイメージと違っていた。潤井川は、心が豊かになる要素をたくさん持っている。ダムに水を溜め、水辺で子供たちが遊べるように、環境を整えてほしい。故郷としての川を誇りたいから。市民の意見も取り入れて、潤井川河畔の公園づくりを進めたい。

生活との関わりをもっと深く

井出 信 子 氏

潤井川流路工は、市民の安全を第一に考えて造られたものである。これに対して、景観を損ねるとか、自然破壊をしているとか、コンクリートづくめで、味気ないなどの批判を云う人も多い。しかし、潤井川の恐ろしさを知っている私たちは、これがベターだと思いい、協力してきた。安全が手に入ると、新たな欲望が出てくるのは仕方がないが、今日の砂防工事は、安全と景観保全を両立させた工法をとっていると聞いている。潤井川と私たちの生活の関わり合



水を豊かに、水辺で生活出来るように

井出 信 子 氏

市民が水辺に親しめる川にして欲しい。それには、

- ①メダカやフナなど魚が見えるように。
- ②大沢崩れの歴史が解る資料館をつくる。
- ③若若男女が憩える場であること。
- ④家族の交流がはかれるように、潤井川公園を整備する。
- ⑤安らげる木陰が出来る、大きな木を植える。

これから住民、行政が一体となって、本当に住民が希望しているまちをつくりたい。潤井川に、水を豊かにして、水辺で生活が出来るように願っている。

歴史的に価値ある地域に、乗らぬ川に

星野 和 彦 氏

緑をつかって、出来るだけ災害を防ごうという考えを、積極的に取り入れている。例えば、広葉樹を保存して育成させ、この木で土石流を食い止めようと試みた。潤井川に人の降りるための坂路もつくった。これで少し人々が、水に触れるようになった。もっともっと、歴史的に価値のある地域にしたいし、柔らかな川へ変えていかねばならない。

ただ一つ、悩みは、土石流である。大沢崩れが上流にあり、大沢自身が年々広く、深くなっている。今、出てくる土砂量が半分減って、上流がさらにきれいになれば、川は、もっと良い状態に変えられるのではないかと思う。

史跡のルート化を

石川 修 氏

富士宮は、これまですぐれたレジャースポット(名所・旧跡めぐり、花見、登山などが楽しめる場所)を持ちながら、それがルート化されていなかった。全市的にルート化を進めていきたい。

親しめる潤井川に

若林 淳 之 氏

大沢崩れの土砂をもっと減らしたいというのは、大沢崩れの上流に対して、工事の手を差し延べるとのこと。これによって、植生が侵されることが、環境が破壊されることが、難しい問題があるが、計画が出来た時に、また、意見を賜りたい。

また、今までの潤井川は、危険だから遠ざけるというのではなく、この流路工の完成を契機に、遠ざける川でなく、親しめる川に変えていき、そのために、ソフトの整備をさらに進めていく必要がある。

# グラフ 見学会

富士山の現状を直接自分の目で確かめ、自然の驚異と砂防事業について理解と認識を深めていただけるよう見学会を企画し、今年度は地元の方を中心に小学生から80才に手の届く御高齢の方まで中広い層の方々に参加いただくことが出来ました。

## 御中道に咲く花々



ハクサンシャクナゲ (7月頃)



ドウゴクミツバツジ (6月頃)



富士山 大沢崩れ (平成8年1月)

写真提供  
富士宮市 塩川悦子さん



7/26 扇状地上流部を見学する  
(富士市教育委員会のメンバー)



7/31 大沢、見晴台にて  
(山梨県鳴沢村の児童)



8/3 御中道、滑沢にて  
(西富士図書館歴史講座メンバー)



しゃくなげの林を  
行く▶



8/30 御中道にて観察会  
(須津中学校教師と生徒)



10/6 御中道滑沢にて  
(猪之頭母親学級外のメンバー)



大沢見晴台にて▶



大沢崩見晴台への急な坂道

富士山と地域を守る

# 富士砂防

平成7年度に完成した事業及び新規着工した事業を紹介します。

完成  
事業

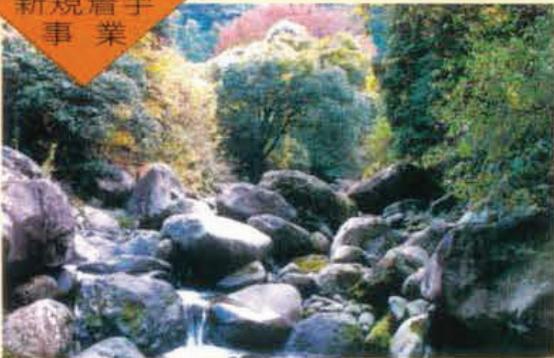


深沢床固工群（富士宮市深沢川）平成8年1月完成



中沢第1砂防ダム（富士宮市中沢川）平成7年11月完成

新規着手  
事業



須津第1砂防ダム（富士市須津川）平成8年3月着工予定



足取流路工（富士宮市足取川）平成7年9月着工

富士山大沢崩れと御中道見学会

第1回

7/25



御中道滑沢にて

大沢見晴台にて



第2回

8/24



御中道滑沢にて

ダケカンバの林を歩く



第3回

10/11



御中道滑沢にて

御中道見学会希望者の  
抽選をする星野事務所長



第4回

10/24



紅葉の大沢、お助け小屋  
にて

お助け小屋内





表彰を受ける芹沢明香さん

## 水と川の21世紀 芹沢明香(富士市立須津中学校3年)さんの 「須津川に描く夢」が優秀賞に ——主催「水21物語」委員会



「須津川に描く夢」イメージ図

二十一世紀の新たな河川(流域)像を模索することを目的に「水21物語」(主催:水21物語委員会、後援:建設省)等が一般公募(応募総数六三三七点)した作品の中より、芹沢明香さんの「須津川に描く夢」がジュニアの部優秀賞に選ばれ、平成七年十二月十七日東京虎ノ門パストラルにて表彰式及び建設省松田芳夫河川局長を始めとした委員の方々との対談が行われました。

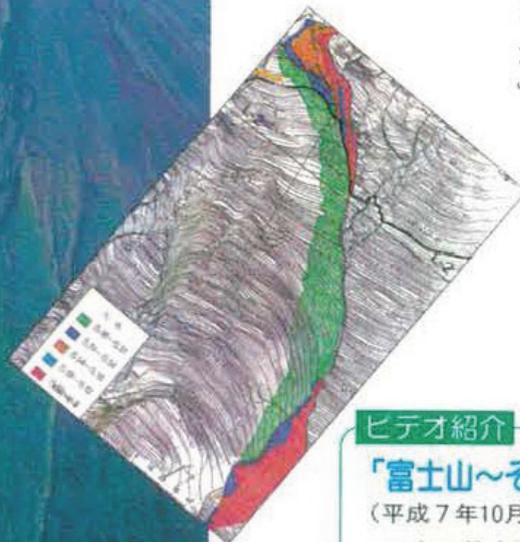
身近な川・須津川を中心に、「自然ゾーン」「憩いのゾーン」「生産ゾーン」「体験ゾーン」等、様々なパークタウンゾーンを考え、生活の知恵として土地の災害や川遊びのことなど、お年寄り等による歴史の「語り館」を作り、川の恐ろしさ、川の恵みを知る。  
自然を守りながら、自然の猛威を柔軟に受けとめ、川と仲よく生活出来る夢を実現させたい。

### 須津川に描く夢

### 新刊紹介

#### 「荒廃が進む大沢崩れ」

「富士山大沢崩れは毎年約平均二十万m<sup>3</sup>もの土砂を下流域に流出させ、今も崩れはとまることなく拡大し続けています。富士砂防工事事務所では、過去二十二年間の調査資料を基に拡大変遷状況として、幅や深さの進行状況を図と写真でわかりやすく説明をした冊子を作成しました。なお、これらの資料については、平成七年度砂防学会に報告しました。」



#### ビデオ紹介

#### 「富士山～その知られざる現状～」

(平成7年10月21日、静岡第一テレビで放送)

日本の最高峰 富士山は、外観とは相違して、形状が保存の危機にさらされている。その表情に目鼻だちを与えているとも言われている放射谷(沢)、その代表的な「大沢崩」の実態と予測を描きながら、災害を防ぐために大自然に頼む人々の姿をはじめ自然環境の立場から見た富士山など、多くの人々の意見を聞きながら、今後の「砂防工事」の在り方を考え、その実態を映像した。——1時間  
※借出し希望(但し、営業は不可)の方は富士砂防工事事務所まで連絡下さい。

#### 情報提供のお願い

●貴重な写真、資料等お持ちの方、また災害体験を有している方の情報提供をお願い致します。

(連絡先)富士砂防工事事務所(建設専門官山田又は、調査課長大長まで)

☎0544(27)5221(内線516又は351)

#### 建設省富士砂防工事事務所

〒418 富士宮市三園平1100 TEL0544(27)5221

#### 富士宮砂防出張所

〒418-01 富士宮市上井出826-1 TEL0544(54)0236

富士山を守り地域の安全に貢献する